

Olympic Values を学ぼう！



多々良直弘

2013年9月にアルゼンチンのブエノスアイレスで行われたIOC総会で東京オリンピック・パラリンピックの開催が決定した時は日本中が喜びを分かち合いました。翌日の英字新聞ではその喜びが“Tokyo to host 2020 Games (*The Japan News*)”や“Tokyo wins bid to host 2020 Olympics (*The Japan Times*)”などのヘッドラインで報道されました。

時の流れは早いものであれから7年が経ち、7月24日の開幕まで様々な準備が進んでいます。オリンピック・パラリンピック組織委員会は学校教育の現場で利用できる様々な教材も準備しています。例えば東京2020教育プログラムでは『オリンピック・パラリンピック学習読本』、『オリンピック価値教育の基礎(OVEP: Olympic Values Education Programme)』や『I'mPOSSIBLE (アイムポッシブル)』などの教材を通じて「自信と勇気」、「多様性の理解」、そして「主体的・積極的な社会参画」の理解を推進しています。その他にも「オリンピック・パラリンピックの価値(Olympic/Paralympic Values)」や「オリンピック休戦(Olympic Truce)」, 「オリンピックの実現に向けて(Making the Olympic Games Happen)」などの教育ビデオを日本語と英語(両言語による字幕付き)で視聴することもできます。このような教材や様々な活動を通じて生徒達が日々グローバル化する国際社会において他者の権利や文化を尊重し、豊かな人間性を育ててほしいです。ピエール・ド・クーベルタン(Pierre de Coubertin)も“For each individual, sport is a possible source for inner improvement”と述べていますが、教育現場でもスポーツを通じた教育により生徒たちの中でポジティブな社会的価値観を育む機会としてこのスポーツイベントを最大限に活用できるで

しょう。

オリンピック・パラリンピックの試合をスタジアムで観戦できる人も、(残念ながら)パブリックビューイングやテレビ、インターネットのメディアを通じて観戦する人もいます。スポーツに勝敗はつきものですが、試合を観戦する時に“Go for it!”や“Way to go!”, “Well done!”などの表現を使って日本代表の選手のみならず国籍を超えて互いを尊重した応援をしたいですね。大成功に終わったラグビーワールドカップでは子供達が参加チームの国家を歌い、選手たちと一体となり大会を盛り上げてくれました。TOKYO2020 Gamesでも子供達が各国の国歌を斉唱したり、様々な言語を使用して Olympic games familyの一員として選手や観客たちと共に参加し、盛り上げることができるような大会になること、そして未来への持続可能(sustainable)な社会を創るきっかけになることを期待します。

しかし2020年3月、世界は新型コロナウイルスCOVID-19の脅威に晒されています。ウイルスの感染が拡大するにつれ、世界はこの見えない敵の恐怖に怯え、残念ながら差別や偏見、そして暴力までもが生まれてしまっています。思い返せばこれまでのオリンピック・パラリンピックはパンクーバー大会の新型インフルエンザやリオデジャネイロ大会のジカ熱などウイルスとの戦いでもありました。しかしこれらのウイルスとの戦いを乗り越え、オリンピック・パラリンピックは開催され、人々に感動と希望を与えてくれました。TOKYO 2020は史上初の延期となってしまいましたが、今はただ1年後に東京大会がウイルスとの戦いの勝利宣言として開幕されることを祈るばかりです。

(たたら なおひろ・桜美林大学准教授)